

ページ・行	誤				正
p.508～509 表-7.5.1	表-7.5.1 液状化が発生する				[変更なし]
	構造区分	地中構造物		地上構造物	
	構造種別	パイプライン		ため池・調整池	
	重要度	B種、C種	A種	B種、C種	A種
	目標とする構造物の耐震性能	設定しない		設定しない	対策工の評価を行う
	耐震設計で考慮する地震動	液状化を考慮した耐震設計を行わない	レベル1	液状化を考慮した耐震設計を行わない	レベル1
	液状化対策	液状化の判定 ・材料の強度、ねばりの最大等 対策工による処理 ・曲がり管、スラストブロックにおける対策工 ・管周囲の液状化抑止	液状化の判定 ・カウンターウエイト ・トレンチ（粘土などの止水トレンチにより、液状化部、変位拘束、トレンチの強度期待）等	液状化の判定法 安定性の確認 ・静的計算 F_L 値法を流用した有効応力法による安定計算 ・動的応答解析（液状化シミュレーション） ・エンドクロニック理論 ・マルチスプリングモデル等 対策工による処理 B種、C種と同じ対策工	
	備考	A種以外		A種以外	

ページ・行	誤	正																																																					
p. 508～509 表-7.5.1	<p>地盤を考慮した耐震設計方針</p> <hr/> <p style="text-align: center;">基 礎</p> <hr/> <p style="text-align: center;">杭基礎（橋梁、ポンプ場、頭首工）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 10%;">C種</th> <th colspan="2" style="width: 40%;">ポンプ場</th> <th colspan="2" style="width: 40%;">橋梁、頭首工</th> </tr> <tr> <th style="width: 20%;">B種</th> <th style="width: 20%;">AA種</th> <th style="width: 20%;">B種</th> <th style="width: 20%;">AA種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設定しない</td> <td>健全性を損なわない</td> <td>限定された損傷にとどめる</td> <td>健全性を損なわない</td> <td>限定された損傷にとどめる</td> </tr> <tr> <td>液状化を考慮した耐震設計を行わない</td> <td>レベル1</td> <td>レベル2（タイプI）</td> <td>レベル1</td> <td>レベル2 （タイプI） （タイプII）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①各構造物に対応するレベル2地震動に土質定数の低減係数を乗じて減少させた地震力を用いる。 ②震度法（許容応力度法）</td> <td>①各構造物に対応するレベル2地震動を用いる。 ②地震時保有水平耐力法 <u>N値25以下を対象とする。</u></td> <td>①各構造物に対応するレベル2地震動に土質定数の低減係数を乗じて減少させた地震力を用いる。 ②震度法（許容応力度法）</td> <td>①各構造物に対応するレベル2地震動を用いる。 ②地震時保有水平耐力法 <u>N値25以下を対象とする。</u></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">引用・参考文献</p> <p>i) 日本道路協会：道路橋示方書・同解説 V. 耐震設計編（2002） ii) 岡原美知夫、和田克哉：杭基礎の設計施工ノウハウ、近代図書（1998）</p>	C種	ポンプ場		橋梁、頭首工		B種	AA種	B種	AA種	設定しない	健全性を損なわない	限定された損傷にとどめる	健全性を損なわない	限定された損傷にとどめる	液状化を考慮した耐震設計を行わない	レベル1	レベル2（タイプI）	レベル1	レベル2 （タイプI） （タイプII）		①各構造物に対応するレベル2地震動に土質定数の低減係数を乗じて減少させた地震力を用いる。 ②震度法（許容応力度法）	①各構造物に対応するレベル2地震動を用いる。 ②地震時保有水平耐力法 <u>N値25以下を対象とする。</u>	①各構造物に対応するレベル2地震動に土質定数の低減係数を乗じて減少させた地震力を用いる。 ②震度法（許容応力度法）	①各構造物に対応するレベル2地震動を用いる。 ②地震時保有水平耐力法 <u>N値25以下を対象とする。</u>	<p>地盤を考慮した耐震設計方針</p> <hr/> <p style="text-align: center;">基 礎</p> <hr/> <p style="text-align: center;">杭基礎（橋梁、ポンプ場、頭首工）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 10%;">C種</th> <th colspan="2" style="width: 40%;">ポンプ場</th> <th colspan="2" style="width: 40%;">橋梁、頭首工</th> </tr> <tr> <th style="width: 20%;">B種</th> <th style="width: 20%;">AA種</th> <th style="width: 20%;">B種</th> <th style="width: 20%;">AA種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設定しない</td> <td>健全性を損なわない</td> <td>限定された損傷にとどめる</td> <td>健全性を損なわない</td> <td>限定された損傷にとどめる</td> </tr> <tr> <td>液状化を考慮した耐震設計を行わない</td> <td>レベル1</td> <td>レベル2（タイプI）</td> <td>レベル1</td> <td>レベル2 （タイプI） （タイプII）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①表-4.2.12に準じて、低減させた土質定数を用いる。 ここで、F_L値（液状化に対する抵抗率）は、道路橋示方書¹⁾に準じて、レベル2地震動に対して求めた値とする。 ②震度法（許容応力度法）</td> <td>①表-4.2.12に準じて、低減させた土質定数を用いる。 ②地震時保有水平耐力法</td> <td>①表-4.2.12に準じて、低減させた土質定数を用いる。 ここで、F_L値（液状化に対する抵抗率）は、道路橋示方書¹⁾に準じて、レベル2地震動に対して求めた値とする。 ②震度法（許容応力度法）</td> <td>①表-4.2.12に準じて、低減させた土質定数を用いる。 ②地震時保有水平耐力法</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1)道路橋示方書¹⁾では、液状化判定はレベル2地震動に対して行うものとしていることから、土質定数の低減係数はレベル2地震動に対して求めたF_L値をもとに設定している。 2)震度法に用いる設計水平震度は、各構造物に対応するレベル1地震動を用いる。</td> <td></td> <td>1)道路橋示方書¹⁾では、液状化判定はレベル2地震動に対して行うものとしていることから、土質定数の低減係数はレベル2地震動に対して求めたF_L値をもとに設定している。 2)震度法に用いる設計水平震度は、各構造物に対応するレベル1地震動を用いる。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">引用・参考文献</p> <p>i) 日本道路協会：道路橋示方書・同解説 V. 耐震設計編（2002） ii) 岡原美知夫、和田克哉：杭基礎の設計施工ノウハウ、近代図書（1998）</p>	C種	ポンプ場		橋梁、頭首工		B種	AA種	B種	AA種	設定しない	健全性を損なわない	限定された損傷にとどめる	健全性を損なわない	限定された損傷にとどめる	液状化を考慮した耐震設計を行わない	レベル1	レベル2（タイプI）	レベル1	レベル2 （タイプI） （タイプII）		①表-4.2.12に準じて、低減させた土質定数を用いる。 ここで、 F_L 値（液状化に対する抵抗率）は、道路橋示方書 ¹⁾ に準じて、レベル2地震動に対して求めた値とする。 ②震度法（許容応力度法）	①表-4.2.12に準じて、低減させた土質定数を用いる。 ②地震時保有水平耐力法	①表-4.2.12に準じて、低減させた土質定数を用いる。 ここで、 F_L 値（液状化に対する抵抗率）は、道路橋示方書 ¹⁾ に準じて、レベル2地震動に対して求めた値とする。 ②震度法（許容応力度法）	①表-4.2.12に準じて、低減させた土質定数を用いる。 ②地震時保有水平耐力法		1)道路橋示方書 ¹⁾ では、液状化判定はレベル2地震動に対して行うものとしていることから、土質定数の低減係数はレベル2地震動に対して求めた F_L 値をもとに設定している。 2)震度法に用いる設計水平震度は、各構造物に対応するレベル1地震動を用いる。		1)道路橋示方書 ¹⁾ では、液状化判定はレベル2地震動に対して行うものとしていることから、土質定数の低減係数はレベル2地震動に対して求めた F_L 値をもとに設定している。 2)震度法に用いる設計水平震度は、各構造物に対応するレベル1地震動を用いる。	
	C種		ポンプ場		橋梁、頭首工																																																		
		B種	AA種	B種	AA種																																																		
	設定しない	健全性を損なわない	限定された損傷にとどめる	健全性を損なわない	限定された損傷にとどめる																																																		
液状化を考慮した耐震設計を行わない	レベル1	レベル2（タイプI）	レベル1	レベル2 （タイプI） （タイプII）																																																			
	①各構造物に対応するレベル2地震動に土質定数の低減係数を乗じて減少させた地震力を用いる。 ②震度法（許容応力度法）	①各構造物に対応するレベル2地震動を用いる。 ②地震時保有水平耐力法 <u>N値25以下を対象とする。</u>	①各構造物に対応するレベル2地震動に土質定数の低減係数を乗じて減少させた地震力を用いる。 ②震度法（許容応力度法）	①各構造物に対応するレベル2地震動を用いる。 ②地震時保有水平耐力法 <u>N値25以下を対象とする。</u>																																																			
C種	ポンプ場		橋梁、頭首工																																																				
	B種	AA種	B種	AA種																																																			
設定しない	健全性を損なわない	限定された損傷にとどめる	健全性を損なわない	限定された損傷にとどめる																																																			
液状化を考慮した耐震設計を行わない	レベル1	レベル2（タイプI）	レベル1	レベル2 （タイプI） （タイプII）																																																			
	①表-4.2.12に準じて、低減させた土質定数を用いる。 ここで、 F_L 値（液状化に対する抵抗率）は、道路橋示方書 ¹⁾ に準じて、レベル2地震動に対して求めた値とする。 ②震度法（許容応力度法）	①表-4.2.12に準じて、低減させた土質定数を用いる。 ②地震時保有水平耐力法	①表-4.2.12に準じて、低減させた土質定数を用いる。 ここで、 F_L 値（液状化に対する抵抗率）は、道路橋示方書 ¹⁾ に準じて、レベル2地震動に対して求めた値とする。 ②震度法（許容応力度法）	①表-4.2.12に準じて、低減させた土質定数を用いる。 ②地震時保有水平耐力法																																																			
	1)道路橋示方書 ¹⁾ では、液状化判定はレベル2地震動に対して行うものとしていることから、土質定数の低減係数はレベル2地震動に対して求めた F_L 値をもとに設定している。 2)震度法に用いる設計水平震度は、各構造物に対応するレベル1地震動を用いる。		1)道路橋示方書 ¹⁾ では、液状化判定はレベル2地震動に対して行うものとしていることから、土質定数の低減係数はレベル2地震動に対して求めた F_L 値をもとに設定している。 2)震度法に用いる設計水平震度は、各構造物に対応するレベル1地震動を用いる。																																																				